

今を未来に

6年生 全国学力・学習状況調査の結果から

1学期末には2～5年生でNRTの結果をもとにして、各学年の子どもたちの「強み」や「弱み」を分析し、それに合わせた指導の工夫・改善について『学校だよりNo.16』を通じてお知らせしました。報道等がありましたので、皆様もご存知かと思いますが、6年生が受けた全国学力・学習状況調査の結果について、その後に出そろいました。今回は、その結果をもとにした6年生の子どもたちの「強み」や「弱み」の分析や、それに合わせた指導の工夫・改善などについて、お知らせいたします。6年生のお子様が見えるご家庭におきましては、本日お子様に個人表を返却いたしましたので、個別の詳しい結果についてはそちらをご覧ください。

本調査における47都道府県毎の正答率の差は、問題数にすると1問できるかできないかの範囲内にほとんどの都道府県が入っています。また、こうした都道府県間の差は年々縮小してきている傾向となっています。報道等により、こうした学力の一側面（数字に表れる学力）をもとにした結果の順位にばかり捉われてしまい、本来の目的（子どもたちの学力『保障』をするために指導の工夫・改善を図ること）が見失われる傾向が、ここ数年は続いているという反省があると聞いています。私たちも分析結果を公表するにあたり、平均に対してどうであったかはお伝えするものの、その学年の「強み」「弱み」を的確につかみ、授業改善・工夫すべき点を明らかにすることを大切にしていきたいと確かめ合いました。そして、家庭学習に関わるところは、お子様一人ひとりに自覚して欲しいと思うこと、家庭で気を付けて協力して欲しいと考えていることを書きました。

【6年生 全国学力・学習状況調査の結果より】

1. 国語・算数・理科の全国平均との比較にかかわって

全教科ともに全国平均を上回る結果となりました。

2. 「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語A：漢字を文の中で正しく使うことができました。また、ポスターや会話文から、目的や意図に応じて内容を読み取ることができていました。

算数A：人口密度や割合といった多少複雑な思考が必要になる問題ができました。また、基本的な公式を扱う問題については、公式を使い分けることができました。

国語B：複雑な文章問題について、目的や意図に応じた読み取りができました。

算数B：示された一つひとつの図表を読み取り、題意に基づいて解を導くことができました。

理科：自然分野と科学分野について、基本的な用語や仕組み、概念、関係性を問われる問題についての正答率が高くなっていました。

(弱み) 国語A：登場人物の心情を、行動や会話、情景描写などから捉えることや行間を読むことに課題が見られました。また、話の中で適切な言葉を使う問題（尊敬語や謙譲語の使い方）に課題があります。正しい漢字を『選択する』問題への無回答も見られました。

算数A：1あたりの考え方や比例のきまりを使って解を導くことや、比例で学習したことを日常生活につなげて考える問題に課題が見られました。

国語B：文字数の制限がある中で、書かれていることを取りあげながら自分の意見をまとめるなど、条件に合わせて記述をする問題に課題がありました。

算数B：棒グラフと帯グラフを関連させてわかることを捉えたり、捉えたことを言葉や式を使って説明したりすることに課題が見られました。こうしたグラフを扱う問題については、無回答率も高くなっていました。

理科：人の腕が曲がる仕組みを筋肉の収縮から理解することに課題が見られました。また、実験について「どんなことを調べるためにどんな実験をするか」「結果から言えること」「問いに対する答え」を区別して理解し、文章（書き言葉）で表現することに課題が見られました。

3. 指導の工夫・改善にかかわって

どの教科においても基礎基本は定着していることがわかります。しかし、基礎的な部分でも無回答となってしまう問題も見られたため、基礎学力充実タイムには計算や漢字などの基礎基本となる内容を継続していきます。一方で、どの教科においても、文を使って説明することが課題となっています。これについては無回答率も高く、子どもたちが苦手意識をもっていると言えます。そのため、普段の授業から書く機会を多く設定して慣れさせるとともに、条件を提示したりキーワードを使ったりして、文を論理的に書くことのできるような力をつけていきます。算数ではノートに立式だけではなく解を導いた手順や考え方を文で表したり、国語で原稿用紙などを活用しながら、条件に合わせて自分の意見を文にしたりする活動を積極的に取り入れていきます。理科については、実験の「ねらいと方法の整理」「多面的な考察」「結果分析」をキーワードとして整理・区別し、子どもたちが考え合う授業を組み立てていきます。また、算数的用語や理科の実験器具などの名称を使えるような丁寧な授業を、これからも続けていきます。

4. 質問紙から見られる特徴（子どもの学習・生活状況や学校運営に関して課題と考えられること）

・「学校のきまりをあまり守れていない」と回答した子の割合が高い

⇒今後も「何のためにそのきまりがあるのか」を中心として子どもに考えさせ、自分が納得したうえできまりを守っていくよさを実感として感じられる働きかけをしていきます。

・家で学校の授業の予習・復習を「全くしていない」と回答した子の割合が高い

・学校の授業以外に普段（月曜日から金曜日）、1日当たりに勉強する時間や読書にける時間が短い

⇒家庭学習の振り返りとも関連させ、宿題の内容や量を見直したり、自主学習を定着させたり、読書を充実させたりといった働きかけを継続して行っています。

・今住んでいる地域の行事に「あまり参加していない」と回答した子の割合が高い

・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることが「あまりない」「ない」と回答した子の割合が高い

⇒時事問題や地域教材を使つての学習を取り入れ、学んだことを普段の生活に生かしたり、行動に結びつけたりしていくことを、低学年から積み上げていくことのできるような学習に取り組んでいきます。地域行事については「参加しよう」と家庭でも声かけをしていただきたいのですが、保護者の方自身の姿でそれを示していただくことも、長い目で見た時には大切になってくるかと思ひます。夏休み最後に行われた人権まちづくり講座第1弾への子どもたち（保幼小中）の保護者の世代の方にほとんど

参加いただけなかったことが、とても気がかりになっています。

- ・算数の問題の解き方がわからない時に「諦めてしまう」と回答した子の割合が比較的高い
- ・国語については解答時間が「足りなかった」と感じている子の割合が比較的高い
⇒学校での授業の中でも時間に見通しを持たせたり、メリハリをつけたりしながら「じっくり」の力をつけていきます。また、足場となる基礎学力の充実と発展的な学習に力を入れていきます。
- ・理科の勉強が大切だと思いますか、理科の授業の内容はよくわかりますかに対して「そう思う」よりも「どちらかというと思う」の割合が比較的高い
- ・理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたかに対して「行っている」よりも「どちらかといえば行っている」の割合が比較的高い
⇒理科の授業で学んだことが、どんなことにつながっているのかを子どもに伝える機会を増やし、「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」といった授業づくりを意識して取り組んでいきます。
- ・学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが「あまりできていない」と回答した子の割合が高い
⇒聴き合い・語り合う授業づくりに今後も力を入れ、子ども同士が学び合うことのできる授業づくりや課題づくりの研修を進めていきます。

5. 家庭学習にかかわって

1学期の取組にもあった家庭学習振り返り週間の結果を分析して見られる課題を、子どもたちの指導に役立てていきます。休日にかける学習の時間が短く、ゲームやスマートホンに依存しているという課題を子どもが自分で見直せるような働きかけを継続していきます。次のステップである中学校に向けて、国語や算数に限らず、理科や社会など、さらには自主学習の課題も出しています。自分で見通しを持って時間の計画を立て、内容を工夫する力をつけていこうとするものです。現在は、その日の授業の振り返りを内容にして学習に取り組む子が増えてきています。また、中学校でつまづきやすい英語の学習に先行して取り組んでいる子もいます。加えて、その日にあったことなど日記を3つの文程度でも書けるようになると、少しずつ文を書くことに慣れてくると感じます。ご家庭でお子様がどのように取り組んでいるのかを見て、アドバイスしていただくと、お子様の学習状況をつかんだり、課題となる部分が見えやすくなったりするかもしれません。そうして見えてきたこと、思われたことについて担任に教えていただくと、今後の指導の改善にもつながりますので、よろしく願いいたします。

【おわりに】

6年生の子どもたちの「強み」や「弱み」といった現状は、今後そこへ向かってく1～5年生の子どもたちにも重なる部分があります。そう考えると、今からできることや学校で取り組んでいかなければならないことが見えてきます。今回の結果分析や前回お知らせしたNRT分析を参考に、次の学年への見通しを持ってお子様の現状を捉えていただきたいという考えから、学校だよりとしてお伝えさせていただくことにしました。ご理解をお願いいたします。

※裏面からは、全国平均と比較して本校の子どもたちの正答率が特に低かった問題を紹介します。お子様の学年によっては、一緒に考えることができるかもしれません。ぜひご覧いただき、今後の参考にもしていただければと思います。

2

増田さんは、ケンとアンが宝物を探す物語を書くようとして、構成の「中」の部分を書くようになりました。次の【物語の構成】をよく読んで、増田さんのくふうの説明として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【物語の構成】

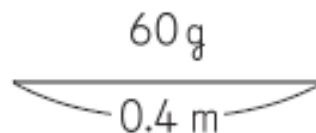
はじめ	ケンとアンは、村に伝わる宝物の話をおじいさんから聞き、宝探しに出かける。
中	<p>① 一日かけて、草原で第一の宝箱を見つける。箱の中には、宝物ではなくカギと紙きれが入っている。</p> <p>② 二日ばかりで、山で第二の宝箱を見つける。箱の中には、またカギと紙きれが入っている。</p> <p>③ 三日ばかりで、川で第三の宝箱を見つける。箱の中には、またカギと紙きれが入っている。</p> <p>④ 四日ばかりで、海で第四の宝箱を見つける。箱の中には、またカギと紙きれが入っており、今まで見つけた紙きれを全て合わせると、宝物の場所を示す地図になることに気づく。</p>
終わり	ケンとアンは、村に伝わる宝物を見つける。しかし、二人にとっては「友情」が一番の宝物となった。

- 1 現在と過去を行き来して書き、読者に出来事のつながりが少しずつ分かるようにしている。
- 2 出来事に変化を加えながらくり返して書き、読者が展開に期待をもって読めるようにしている。
- 3 物語の結末の場面から書き、読者が展開に興味をもって読めるようにしている。
- 4 時間の流れとは反対の順序で書き、読者に出来事のきっかけが分かるようにしている。

算数A

1

0.4 m の重さが60gの針金はりかねがあります。
この針金について、次の問題に答えましよう。



- (1) 針金 0.2 m の重さは何gですか。また、針金 0.1 m の重さは何gですか。それぞれ答えを書きましよう。

松山さんの学級では、自分たちの言葉の使い方を直すために、立場を決めて話し合うことにしました。次は、そのときの【話し合いの様子の一部】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

司会 自分たちの言葉の使い方を直すために、今日は「生活の中で使っている言葉はみだれているか」について、三人の代表の人に考えを発表してもらいます。そして、その意見をもとにして、自分はこの言葉を使うとどうやっていくとよいかについて全員で話し合い、考えていきましょう。それでは田中さんから、発表をお願いします。

田中 ぼくは、言葉はみだれていると思います。調べてみると、本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉があるということが分かったからです。文化庁の「国語に関する世論調査」では、「役不足」という言葉について、「本人の力量に対して役目が軽すぎる」という本来の意味を選んだ人は四十一・六パーセントでした。半数以上の人は、本来の意味とは異なる使い方をしているようです。

北川 私も、言葉はみだれていると思います。なぜなら、言葉を省略して話す人が多いからです。例えば、「今年もよろしくお願いします」を「ことよろ」と言うことがあります。省略すると相手や場に合っていない言葉になったり、意味が分からなくなったりすることがあると思います。

小池 私は、言葉はみだれていないと思います。例えば、「全然」は「全然ない」のように、あとに打ち消しの言葉がくるときに使うことが多いのですが、最近では、「全然いい」という使い方をする人もいます。また、辞書によると、あとにくるのが打ち消しの言葉に限らない時期もあったそうです。このように、時代によって言葉の使われ方は変わるから、今まではちがう使われ方だとしても、言葉がみだれているとは思えないと思います。

司会 ありがとうございます。それぞれの発表に対して質問はありませんか。

★木村 小池さんに質問があります。時代によって使われ方が変わった言葉は、「全然」以外にどのようなものがありますか。

小池 例えば、「見れる」という言葉があると思います。私たちは「見ることができると」という意味で使っていますが、辞書には、「見られる」と言うべきものと書かれていました。

司会 ここまで代表の人に考えを発表してもらいました。田中さんは、本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉があるから言葉はみだれているという考え、北川さんは、言葉が省略して使われているから言葉はみだれていないという考えでした。三人の意見について、みなさんはどう考えますか。言葉はみだれていないという考えでした。田中さんは、言葉の使われ方は時代によって変わるものだから、言葉はみだれているという考えです。小池さんは、言葉が省略して使われているから言葉はみだれているという考えです。北川さんは、言葉が省略して使われているから言葉はみだれていないという考えです。三人の意見について、みなさんはどう考えますか。

金子 田中さんが話したように、ぼくも本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉は確かに多いと思います。これからは、よく使っている言葉でも、疑問をもったときは意味を調べてみたいと思います。

青木 本来の意味とは異なる使い方をしていると田中さんは言っていました。そのような使い方をしても、自分の思いが相手に伝わることはあると思います。相手の理解を確かめながら言葉を使っていることだと思います。

◇司会 金子さんや青木さんは、これから言葉をどのように使っていくかについて話していました。みなさんも、そのことについての自分の考えも話してください。

松山

（話し合いが続く）

一 【話し合いの様子の一部】の★木村さんは、何のために質問をしたと考えられますか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 発表の中で自分が聞きのがしたことをもう一度聞くため。
- 2 相手の考えの中で最も伝えたいことをたずねるため。
- 3 相手の考えとその理由のつながりを明らかにするため。
- 4 具体的な例がほかにもあるかを確かめるため。

二 【話し合いの様子の一部】の司会は、部のように発言することによって、この話し合いの中で

どのような役割を果たそうとしていると考えられますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 話し合うことを明確にするために、三人の立場と理由を整理しようとしている。
- 2 立場を明確にして話し合うために、最もよい考えを選び出そうとしている。
- 3 活発な話し合いにするために、時間や約束を守るように注意しようとしている。
- 4 発言回数に気をつけながら、話し合いを計画的に進めようとしている。

算数B

しおりさんたちの学校は、「進んであいさつをする」と「本をよく読む」の2つのめあてに取り組んでいます。

しおりさんたちは、7月と12月に、2つのめあてについて全校児童625人に対してアンケート調査をし、その結果を下のグラフに表しました。

しおりさんは、グラフからわかることを2つのメモに書きました。

えりかさんとまさるさんは、しおりさんが書いたメモについて話し合っています。



メモ1を見ると「進んであいさつをする」のほうが人数が多いです。でも、メモ2を見ると「本をよく読む」のほうが人数が多いですね。



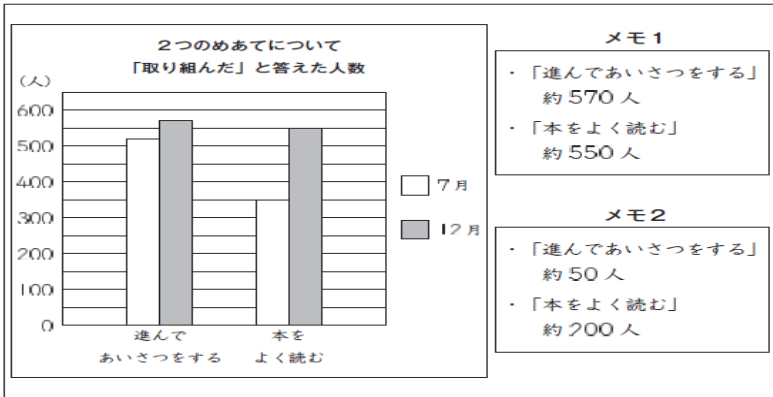
メモ1では、「進んであいさつをする」のほうが人数が多く、メモ2では、「本をよく読む」のほうが人数が多いのは、なぜですか。



メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書いているからです。

しおりさんが言うように、メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書かれています。

(1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。



メモ1

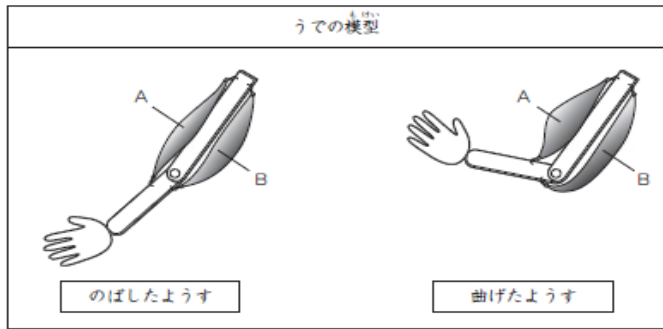
- 「進んであいさつをする」約570人
- 「本をよく読む」約550人

メモ2

- 「進んであいさつをする」約50人
- 「本をよく読む」約200人

理科

しんさんは、下の図のようなうでの模型を使って、うでが曲がるしくみを考えることにしました。



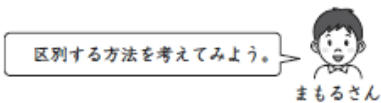
(4) このうでの模型を使うと、うでが曲がるしくみのどのようなことを説明することができますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- うでは、3本の骨があって、うでをひねったり、曲げたりすること。
- Aの筋肉が縮み、骨と骨のつなぎ目でうでを曲げること。
- AとBの筋肉が同時に縮み、骨と骨のつなぎ目でうでを曲げること。
- Bの筋肉が縮み、骨と骨のつなぎ目でうでを曲げること。

正しくろ過した海水をペットボトルに入れたところ、海水と水道水の区別がつかなくなりました。



どちらが海水だったかな。



区別する方法を考えてみよう。

ゆかりさんたちは、次の方法で調べることにしました。

二人の方法で実験をすると、下のような結果になりました。

ゆかりさんの考えた実験方法

ペットボトル①とペットボトル②に入っている水を蒸発させる

ペットボトルに入っている水をそれぞれ蒸発皿に入れる。

ゆかりさんの考えた実験方法と結果	
ペットボトル①とペットボトル②に入っている水を蒸発させる	
ペットボトル①	何も残らない
ペットボトル②	白い物が残る

まもるさんの考えた実験方法

ペットボトル①とペットボトル②に入っている同じ体積の水の重さを比べる

ペットボトルに入っている水を同じ体積はかりとる。

まもるさんの考えた実験方法と結果	
ペットボトル①とペットボトル②に入っている同じ体積の水の重さを比べる	
ペットボトル①	200g
ペットボトル②	202g

(2) ゆかりさんとまもるさんが行った実験の結果から、海水が入っているのは、ペットボトル①とペットボトル②のどちらだと考えられますか。下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 海水が入っているのは、ペットボトル①と考えられる。
- 海水が入っているのは、ペットボトル②と考えられる。
- 2つの実験の結果からは、判断できない。